

# 合格に導くTACの戦略的カリキュラム

## インプット編

### 弁理士試験合格のための徹底的な基礎知識を習得

国家試験の最高峰のひとつと言われる弁理士試験も基礎知識がないと合格できません。令和2年度の短答式試験を例にとると、合格者と不合格者で差がついた問題は、決して難しい問題ではなく、基本的な問題でした。基本講義で学習する内容は、その基本的な問題で確実に得点化できるようにするために必要な基礎知識です。基本講義で習得した知識が弁理士試験合格のための土台となり、必要不可欠なものになります。

#### インプット

### 体系編 全18回

講義回数	1回の講義時間(途中休憩あり)
● 特許・実用新案法 8回	150分
● 意匠法 3回	使用テキスト
● 商標法 3回	ELEMENTS 1(特・実)
● 条約 2回	ELEMENTS 2(意匠・商標)
● 不競法・著作権法 2回	ELEMENTS 3(条約・不・著)

### 基本講義 全53回

#### インプット

### 基本講義(論文編) 全2回

講義回数	1回の講義時間(途中休憩あり)
● 特許・実用新案法・意匠法・商標法 2回	150分

#### インプット

### 論文上級講義 全8回

受験経験者専用

講義回数	1回の講義時間(途中休憩あり)	使用テキスト
● 特許・実用新案法 4回	150分	論文要点集
● 意匠法 2回		
● 商標法 2回		

## カリキュラム

### 逐条編 全35回

講義回数	1回の講義時間(途中休憩あり)
● 特許・実用新案法 13回	180分
● 意匠法 5回	使用テキスト
● 商標法 7回	基本講義テキスト逐条編(特・実)
● 条約 5回	基本講義テキスト逐条編(意匠・商標)
● 不競法・著作権法 5回	基本講義テキスト逐条編(条約・不・著)

1回の講義時間(途中休憩あり)	使用テキスト
150分	基本講義テキスト論文編

### アウトプット 論文アプローチ答練 全8回

受験経験者対象

講義回数	1回の講義時間	使用教材
● 特許・実用新案法 4回	問題演習 60分	問題・解答解説冊子(全8回分)
● 意匠法 2回	解説講義 60分(Web配信)	
● 商標法 2回		

### アウトプット 論文基礎答練 全3回

講義回数	1回の講義時間
● 特許・実用新案法 1回	問題演習 60分+休憩 10分+解説講義 80分
● 意匠法 1回	使用教材
● 商標法 1回	問題・解答解説冊子(全3回分)

### アウトプット 論文応用答練 全9回

講義回数	1回の講義時間
● 特許・実用新案法 3回	問題演習 120分+休憩 10分+解説講義 50分(特・実)
● 意匠法 3回	問題演習 90分+休憩 10分+解説講義 50分(意匠・商標)
● 商標法 3回	使用教材
	問題・解答解説冊子(全9回分)

### アウトプット 論文的中答練 全6回

講義回数	1回の講義時間
● 特許・実用新案法 2回	問題演習 120分+休憩 10分+解説講義 50分(特・実)
● 意匠法 2回	問題演習 90分+休憩 10分+解説講義 50分(意匠・商標)
● 商標法 2回	使用教材
	問題・解答解説冊子(全6回分)

### アウトプット 短答基礎答練 全5回

講義回数	1回の講義時間
● 特許・実用新案法 1回	問題演習 90分+休憩 10分+解説講義 50分
● 意匠法 1回	使用教材
● 商標法 1回	問題・解答解説冊子(全5回分)
● 条約 1回	
● 不競法・著作権法 1回	

### アウトプット 短答応用答練 全6回

講義回数	1回の講義時間
● 特許・実用新案法 2回	問題演習 120分+休憩 10分+解説講義 50分
● 意匠法 1回	使用教材
● 商標法 1回	問題・解答解説冊子(全6回分)
● 条約 1回	
● 不競法・著作権法 1回	

### アウトプット 短答的中答練 全4回

講義回数	1回の講義時間
● 全科目 4回	問題演習 120分+休憩 10分+解説講義 50分
	使用教材
	問題・解答解説冊子(全4回分)

### アウトプット 短答式全国公開模試 全3回

実施回数・1回の実施時間	
● 全科目 3回	12:30~16:00 問題演習 210分
	解説講義 90分(Web配信)
	使用教材
	問題・解答解説冊子(全3回分)

### アウトプット 論文式全国公開模試 全2回

実施回数・1回の実施時間	
● 全科目 2回	10:00~17:00(随時休憩あり)
	特許・実用新案法 120分
	意匠法 90分 商標法 90分
	解説講義 120分(Web配信)
	使用教材
	問題・解答解説冊子(全2回分)

### 基本講義(体系編・逐条編)

弁理士試験合格に必要な範囲をすべて網羅し、知識の土台を固める講義です。体系編では、合格のために必要な「知識の枠」を作り、逐条編では、その「知識の枠」に条文の知識を丁寧にに入れていきます。また逐条編では短答対策と論文対策を同時に学習できる短答論文ハイブリッド学習を実施します。

### 基本講義(論文編)

論文式試験特有の出題パターンを分析し、各パターンに応じた論文作成テクニックをマスターする講義です。「何をどのように記述していくか」の段階からはじめ、最終的にはどのような出題パターンにも対応できるようになります。

### 論文上級講義

論文式試験で出題される可能性のあるテーマを厳選した論文要点集を使用し、基本的な法律用語や重要な論点をピックアップし、講義をしていきます。論文式試験に合格する上で必要な基本知識の習得を目指します。

### 論文アプローチ答練

これまでに培ってきた知識を元に事例問題で対応できるかを確認します。問題を通じて基礎知識を確認するとともに添削を通じて指摘が合った箇所やWeb解説講義で復習することでゆるぎない論文作成力を形成していきます。教室講座では、答練のみの実施となります。

### 論文基礎答練

論文式試験過去問などを用いて、論文に必要な知識や作業を確認する答練です。初めて論文を書く方を対象に、題意把握→答案構成→論文作成という流れを意識しながら、問題文の読み方・答案の書き方を学びます。

### 論文応用答練

論文式試験で問われる知識、答案構成力等、これまでに身につけた力をすべて使って、論文式試験と同等レベルの問題に繰り返し挑戦し、答案作成力を本試験合格レベルに引き上げます。問題を通じて、出題者の意図を読み取る力、答案に記載すべき内容を判断する力、結論までの筋道を組み立てる力を確立し、論文式試験合格に必要な論述力を養います。

### 論文的中答練

論文式試験レベル、もしくはそれよりも高い難易度を想定した問題を出題します。論文式試験以上に負荷がかかる環境を作ることで、筆力を確実なものとし、論文式試験対策の総仕上げを行います。論文応用答練から継続的に演習を続けることにより、論文式試験に向けて、実力をキープ・向上させることができます。

### 短答基礎答練

「これだけは押さえて」基本事項を出題する答練です。基本講義(逐条編)の各科目の終わりに実施しますので、各科目の総まとめを兼ねた知識確認ができます。また早期に知識の穴を発見し、弱点補強をすることで、本試験に向けた実戦力の向上を図ります。

### 短答応用答練

短答式試験と同じ5肢択一形式で各科目ごとに実施します。短答式試験もしくはそれより少し高いレベルの問題を、短答式試験より速いスピード(本試験は3.5時間で60問(1問あたり3分半)に対し、短答応用答練は2時間で40問(1問あたり3分))で解くことで、実戦力を養います。

### 短答的中答練

短答式試験と同じ5肢択一形式で出題範囲も全科目に拡大して、実施します。短答式試験同様の多彩な出題形式を取り入れ、本番形式に慣れるとともに、時間内に解答の取捨選択ができるような実戦力を養います。短答式試験に近い難易度の問題や応用力が問われる問題も取り入れています。

### 短答式・論文式全国公開模試

本試験同様の実施時間・実施形式で実施する模擬試験です。同じ志を持った質の高い集団の中で自分の位置・レベルを確認することができます。また、TACの全国公開模試は本試験での「的中」が続出する質の高い模擬試験です。